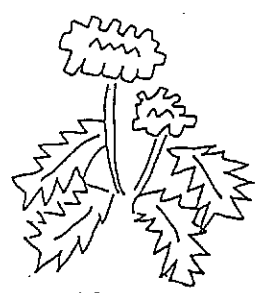


NO 166
 H13年4月1日
 -発行-
 〒869-1217
 熊本県菊池郡
 大津町森54-2
 社会福祉法人
 三気の会
 三気の里
 ☎096-293-8100



後援会ありがとう

- 増田 陽介・百崎 末雄
- 末永 ユリ・石井 暁子
- 大石龍之介・太田 智己
- 小屋野ミチ子



小山胃腸科クリニック

小山 浩徳 ※敬称略



後援会募集のご案内

三気の里では、後援会を募集しています。御入会頂いた方には、毎月発行している機関紙「たんぼ」をお送り致します。

振振り込み先

口座番号

0197018114902

社会福祉法人 三気の会后援会
 保護者会代表 魚谷 秀文 宛
 住所 熊本県菊池郡大津町森54-2

一口 3千円

団体は、一万円より

遺産

施設長 松田 健

2回にわたり、故田中 稔施設長が書かれた「自閉症についての5つの話し」を載せます。

この資料は、自閉症という障害について、保護者や関わっておられる方たちを対象として書かれたものです。

自閉症については、報告から既に五十年近くありますが原因もどうして起こるかも分かっていません。従ってこの文章は、現時点での考え方を述べたものです。これを参考として自分の考え方を持っていただきたいと思います。一人一人の考え方や経験や実践が積み重ねられて、この子達への療育へのしっかりとした、大きな道ができていくものと思います。この資料がその為に少しでもお役に立てば幸いです。自閉症の近接障害で

ある(自閉的傾向、多動症、学習障害、微細脳障害症候群、注意集中障害症候群)、いわゆる発達障害といわれる障害にも応用ができます。

その1、自閉症という障害

自閉症という障害は、1943年アメリカのカナー医師によって特異な症候を持つ十一例の子供たちが報告されたことに始まるとされていますが、それ以前から存在していたと思われる。

当初、分裂病の早期発症例ではないか、又親の冷たい療育態度によって引き起こされた心因性の情緒障害ではないかという考え方がありました。

その為、対処法も子供のあがまま、なすがまま受け入れてあげなさい。そうすれば自閉症は治るといった助言がまことしやかに専門家といった人たちによって行われていました。この事は、今でも

深い傷痕となって成人した一期生の子供たちの中に残っています。

1970年代になって、イギリスのラター、ウイング等によって「自閉症は、脳の発達に障害が起って起こる。その結果、脳の働きに歪みが起こり特異な言語障害、見たり、聞いたり、触ったりしたことの意味や理解したり、応用したりする概念、認知能力に障害が見られる。これらの事が基本にあって人との関係が出来にくかったり、強いこだわりや常同行動が出たり、等の特異な症状を示す。」という考え方が提案されました。

自閉的傾向、多動症、学習障害、微細脳障害症候群、集中力障害症候群、強度行動障害、広汎性発達障害等についても、いずれも脳の何らかの発達の躓きを背景に持っていると考えられます。

甥の問題や心因性の問題や情緒障害がメインではありません。

(次号に続く)



♪ 春がやってくる♪

はーん にゅーす 1

1 班・大津駅発 豪華料理

今年度も残すところあと僅かになりました。3月に入り頼なでる風に本格的な春を感じているのは私だけでしょうか？さて今年度も1年を通していろんな所に行きいろんな事を体験しました。しかし今回のレクリエーションはちょっと違った企画をやってみました。JRを利用して大津駅から熊本駅まで移動してホテルニューオオタニで豪華なコース料理を食べました。

JRの移動はどうだった？職員の不安心をよそにとでも静かおしゃべりをする人はいません。外を眺める余裕さえありました。さてメインの食事（前菜、スープ、パン、お魚、お肉、デザート、コーヒー）慣れないコース料理に戸惑いながらも次の料理が運ばれてくるのをじっと待っている目は真剣そのものでした。約1時間半味わいながら食事をしました。出発前は「焼き肉定食が食べたい」と言っている人もいましたがみんな大満足の様子でした。私自身も慣れない料理に緊張しましたが何事も経験と自分に言い聞かせたのでした。1年間総決算のレクは新しい体験と豪華な食事で大成功で終わることができました。

阿南

2 班・来年はみんなで…

みんな散歩をしていると、いろんな花がきれいに咲いているのを見ます。もう春だなーと実感すると同時に今年度ももうすぐで終わりかと時の経つ速さを感じてしまいます。

さて2班は先日保護者の方と一緒に菊南観光ホテルで会食会をしました。日頃、ゆっくり話せなかったことや昔のなつかしい話などを聞くことができ、楽しいひとときを過ごすことが出来ました。利用者の方達はというと、目の前に並んだ御馳走を食べることで頭は一杯だったようです。（杉本さんは靴下を脱いで正座して臨戦態勢に入っていました。）出てくる物、出てくる物きれいさっぱり食べていて、話し声というより感嘆の声（満足の）が響きわたっていました。また途中、カラオケを唄いましたが、村上さんとお母さんのデュエット、伊石さんの歌声、藤本さんが熱唱したスマップのらいおんハートは必聴でした。最後に利用者の方と職員で岩風呂に入って1年間？の疲れを癒し、来年度に向けてパワーを充電してきました。来年は、保護者の方も食事だけでなく、一緒に入浴できるように計画しようと思っていますのでよろしくお願い致します。

P. S 広瀬指導員、4年間お疲れさまでした。退職されても三気の里に遊びに来て下さい。みんな楽しみに待っていますよ。

樋本

3 班・いろいろな声

3月8日AM6:00、朝起きて私は自分の目を疑った。「まっ、まさか…。」

視線の先には霧雪・雪・雪（今日は3班レクだというのに）そんなこんなで悪条件の中、天草へ海鮮丼を食べに出掛けました。しかし海鮮丼までの道程は長く、「お腹が空いた〜!!」と皆の心の声が。PM1:00、やっと念願の海鮮丼にたどり着き皆の顔もニンマリ😊のさぁ、お腹も満ちたところで次は近くの海岸でゆっくり…と思っていたら「来た来た来たー!」の一声が。思わず振り返ってみると砂嵐がザザ〜。え？今日は楽しいレクのはずじゃ…と自分に問いかけた一日でした。

早いもので3班の皆と過ごして一年が過ぎようとしています。この一年の間にできる事がたくさん増えたのではないのでしょうか。これを読んで『あなたがもっと成長しようね。』という声があちらこちらから聞こえてきそうですが…。 あぁ心が痛い。♡

井手



班 ニュース 2



4 班 ・ それぞれの春

山も野も春一色のよそおいになってまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

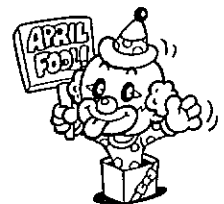
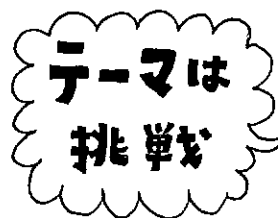
さて、3月のレクリエーションは今年度最後ということで、多くの保護者の方にも参加していただき、一年間の労をねぎらう意味も込めて、食事会に出掛けました。色とりどりの豪華な懐石料理は何と10品以上！皆さんおいしい料理に大満足していました。そして、締めくくりには昨年(11月)に山口・福岡方面へ出掛けた宿泊レクリエーションのアルバムを贈呈しました。これには、保護者の方がとても喜んでくださいました。写真を通してみんなが楽しんでいた様子が伝われば幸いです。

この一年間、農耕班の新たな取り組みとして、毎週金曜日の午前中には教材を行っています。内容は個人のレベルに合わせており、種の代わりにビーズを使って種蒔きの練習をしたり、ビーズ通しをしたりと様々です。教材の時間を楽しみにしている人も多く、作業棟に入るなり率先して始める人もいます。最近では離席が減ったり、静かにできるようになったりと、みんなの努力の成果が現れるようになりました。来年度は作業場面で活かして行きたいと思っています。

3月一杯で、開所当時から農耕班で基礎を作り上げてくださった木下課長が通所部へ、2年間みんなに笑顔をふりまいてくれた宮原指導員は一班へ旅立つことになりました。寂しいですが、更なる活躍をお祈りします。そして、これからも農耕班を温かく見守っててください。 石田

6 班 ・ 初体験第2段 『サーカス団入団！？』

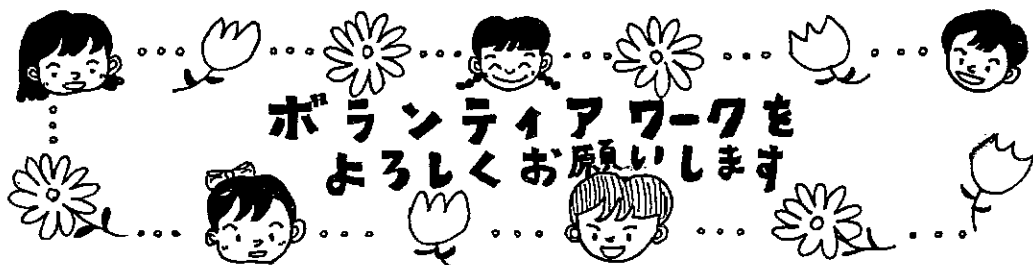
3月だというのに、ブルブル震える寒さがあったり、桃も梅も私も喜ぶポカポカ陽気だったり、何かと変動の多い気温が続いています。さて、6班レクの日は何日？この日は少し寒いような気がする？といいながら洋服を一枚多めに着るべきか、それとも薄着で良いかなといいながらも、今日は保護者同伴の食事会&慰労会皆が楽しみに待っていたレクリエーション。そんな考えどこへやら。気づけばそこはもう、食事処「網元」懐石料理を上品においしくいただいて、ちょっとの休憩の合間にくじ引き大会！1等賞が2本も当たる一家もあれば、大好きなお菓子の本が当たった一家も、その他、それぞれが自分の思い通りの物が当たって大喜びの人もいれば、思ってもいないものが当たり嫌がるかと思えば、逆に気に入ってずっと持っていたりする人もいました。賞品を片手に、次はこれまた初体験でサーカス「ポップサーカス」の見学に行きました。フードパル熊本の広場に大きなテントが作っており、中に入るとその中はポカポカと暖かく、少し薄暗い中何があるのか何が始まるのか、ドキドキわくわくしながら待っていました。中国雑技団の芸やピエロの芸トランポリンや犬、孔雀の芸、メインは最後の空中ブランコ。“トランポリンと空中ブランコに参加したい！サーカス団の一員になりたい！”と思ったのは私だけでしょうか？ポカんと口を開けて観ている人、大好きな犬が出ると食い入るように観ている人、ピエロのおならの芸に大受けしている人。皆それぞれ興味を引くところは違っても、それぞれに楽しんでいたようでした。このような催し物(例えば、野球観戦、相撲、サッカー、演劇等)を来年度もたくさん初体験をしていきたいと思えます。 八木



班 ニー ス 3

5班・頑張れ5班のみんな!

暦の上では春ですが、まだまだ寒く風邪をひく人がちらほらと見られる中、園芸班は3月6日いつもお世話になっている岩戸の里にボランティアワークに出掛けました。作業の内容としてはいつも三気の里でしている草取り、ごみ拾いでした。残念ながらこの原稿を書いている東内は、勤務の都合で不参加でしたので、参加した石丸、佐藤に聞いて書いています。あしからず。初のボランティアワークということで緊張気味の職員に比べ皆は意気揚々としており、のびのびと作業に取り組んでいたそうです。長年園芸で頑張っている林さんや佐々木さん、丁寧に草を取り皆のお手本となっていたそうです。もちろん他の皆も自分のペースではありましたが頑張っていたそうです。この皆の作業への取り組む姿勢を見て私たち指導員は今後もこのボランティアワークを続け、出来るだけ多くの経験をしてもらい将来につなげていってほしいと思いました。今後の園芸班の成長をご期待ください! 東内



ボランティアワークを よろしくお願いします

退職にあたって

山口 裕之

6年前、私はここ大津町にある三気の里にきました。

職員として働き始めてすぐの頃まだ何をすれば良いのか分からずただベテラン職員の仕事をじっと見ながらまねをしていたときのことを思い出します。一日一日が新鮮でドキドキしながら毎日を送っていました。

6年経って、周りの職員と園生の事について考え園生と関わり、保護者と話をしていく中で、いつの間にかここでの生活が私の一部となり、いつの間にか園生や職員が私の家族のように感じ、その気持ちは年を重ねるごとに強いものとなって来ました。

今回退職するにあたり、今まで一緒に生活を共にしてきた皆と離れることはたいへん寂しいですが今まで学んだことをこれから人生に活かして頑張りたいと思います。

三気の里の皆さん大変お世話になりました。



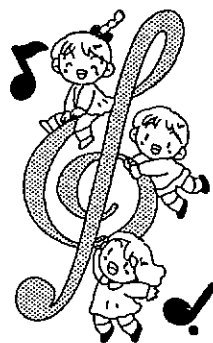
交流会

石丸 直美

三月一日大津南小学校の生徒さん七名と五・六班で交流会を行いました。きっかけは南小学校の生徒さんが三気の里と交流会をしたいと、訪ねて来てくれた事でした。

生徒さんが手話つきで『ふるさと』の歌を聞かせてくれた後、一緒に『あかとんぼ』を歌ったのですが、皆小さい時にご両親に歌い聞かせてもらったのでしようね、歌詞をよく覚えておりとても上手に歌っていました。マイクを向けるとさらに大きな声で上手に歌う人ばかりで、こんなにも上手なのかと驚きました。その後身体を使って歌を歌ったのですが、生徒さんたちは照れもあつたため、三気の里の皆様が上手で、とても楽しんでいました。

わずか一時間半の事でしたが、生徒さん、五・六班共に歌い、話し、走り、楽しい交流会でした。



療育雑記

帰宅

大賀 聖子

宏幸さんは昭和43年生まれ、32歳になりました。入所したのは12年前、ちょうど20歳のときでした。入所したころの宏幸さんは、それはそれは元気で、有り余るパワーをあっちこっちでドカン、ドカンと爆発させる毎日でした。私たち指導員の言うことなんて何ともないという宏幸さんも、月に2回の帰宅日が近づいてくるとソワソワ、「いい子にしていないと家には帰れないんだよ」の一言が宏幸さんにとって一番効ける言葉だったように思います。

宏幸さんは、お父さんやお母さんのご協力で、長い間毎月2回の帰宅を続けることができました。ところがこの1年、第2・第4土曜日の帰宅予定日に家庭から帰宅中止の連絡が入ることが多く、月1回いえ時には2カ月おいてやっと帰宅ということさえありました。宏幸さんのお父さんはお仕事の関係で病気になるれ、入退院を繰り返されています。お母さんは車の

免許がなく、お父さんが入院されると、路線バスで病院に行き来し身の回りのお世話をされています。

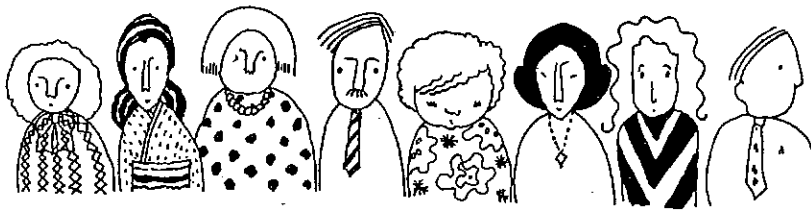
お母さんとしては宏幸さんの帰宅もさせたいけれど、自宅が遠いために路線バスでの帰宅は1日かかりで、とてもできないとのこと。結果、宏幸さんは三気の里で待っているという状態になるわけです。

1月、2月と一斉帰宅日に帰宅を中止するという連絡をお母さんからいただきました。帰宅はできないけれども、保護者会には出席しますとおっしゃるお母さんに、2月の一斉帰宅日に二人で外出をさせていただきませんかと提案させていただきました。お母さんは快く引き受けてくださり、2人でジャスコまで出掛け、食事と買い物をして来られました。帰宅できなかつたことは残念だったようですが、お母さんと2人で過ごす時間を持つたことを、宏幸さんはとても喜んでくれました。3月の一斉帰宅日にはお父さんが退院され、帰宅をすることにになりました。お母さんによると、帰りにジャスコに寄って欲しいものを買ってあげようとした

けれど、「いらぬ」と言っておうとしなかったとのこと。「以前はあれこれと欲しがって困るほどだったのに、もう親はいらないんじゃないかと寂しくなりました」と涙ぐまれました。三気の里にいるときの宏幸さんは、家のことばかり気にしていて決してお父さんやお母さんのことをいらないなんて思っています。しかしこの1年、帰宅が中止になることで自ずと我慢しなければならぬ場面ができ、知らず知らず宏幸さんも大人になっていったようです。

帰宅は、園生と社会をつなぐ第1歩。お父さん、お母さんがお元気なうちはぜひぜひ続けていただきたいことです。しかし、それは永遠に続けられることではなく、いつか何らかの変化を求められること。私はこの1年の宏幸さんとの付き合いの中で、また宏幸さんの帰宅状況を見る中で、園生と家族の付き合い方も家族の状況にあわせて変化させていくことが必要であり、状況に合った方法を提案し、実現可能にしていくことも私たちの仕事であると考えました。今、宏幸さんはタクシーでの外出

を練習中です。これから始まる次の1年を、お父さん、お母さんに築いていただいた社会との懸け橋を一步延ばして、社会と直接触れ合い、楽しみを増やせる1年に、と同時に、お父さん、お母さんと宏幸さんの付き合い方も、状況に応じて提案していく1年にしたいと思います。



九州・山口地区自閉症

研究協議会・沖縄大会

東内こずえ

私は2月17日・18日に沖縄で行

われた「九州・山口地区自閉症研

究協議会・沖縄大会」に参加しま

した。初めての研修ということで

緊張していたのですが、講演を聞

いているうちにその緊張は無くなっ

ていました。初日の講演の内容は

「TEACHプログラムとは何

か」で、自閉症の人がより自立的

に生活できるよう構造化すること

が必要という内容でした。又、T

EACHを取り組んでのケース

発表もあり構造化の必要性がわか

りました。

二日目は「自閉症の青年・成人

の問題及び社会参加に向けてどの

ように支援するか」という内容で

した。やはりここでも構造化の重

要性をメインに話が進んでいきま

した。親や指導員が自閉症の特性

を承知して育てていくこと、指導

員が利用者に達成感・満足感を持

たせるような指導をしていき、利

用者の生きる意欲になっていくよ

うな能力の開発をしていく必要が

あるということでした。能力内自

立を図り快速に生きていけるため
の道づくりを私たち指導員がして
いく必要があると実感させられま
した。



大津ジョギングフェスティバル

江藤ひとみ

去る2月25日(日)大津町のス

ポーツの森にて第2回大津ジョギ

ングフェスティバルが行われまし

た。三気の里からは利用者10名、

職員10名が2km・5kmにわかれて

参加しました。

当日は晴天、前日の雨の予報が

嘘のように、太陽が顔を見せてい

るなか大会にのぞきました。スタ

ート前みんなで栄養ドリンクを飲

み気合い十分!いざスタート!ま

ずは2kmから始まりです。スター

トしてすぐバテ気味のわたくし江

藤・藤本チーム。途中歩きあり、

ダッシュありの2kmの道のりです

だけだなく20名全員ゴールするこ

とができました。さすがに利用者

のみなさんは走り終わった後も元

気いっぱい、参加者全員にくば
られる豚汁を満腹そうに食べてい
ました。順位の結果はどうであれ、
完走したことに意義があります。
藤本さんと頑張って走れたことは、
とても楽しいチャレンジになりました。
また来年も頑張るぞ!..
どうしようかなあ?②



事務便り

田之上 健一

あゝあ又、年度末が来ました。

事務処理は待ってくれません。

事務経験も二年程になりました。

ため息も多くなる毎日ですが、事

務所においても必ず作業の行き帰りに

挨拶や声をかけてくれる利用者

の方々に感謝。たまに宿直に入る

とみんなと接する時間が増えます。

短い時間ですが、もう一人の自分

になれる時間です。大切にしたい

と思います。

食当室営業中

三月に入り、気候も段々暖かく

なって来ました。季節の移り変わ

りを、厨房の窓を通して感じる事

が出来ます。(中庭の木々や、花

壇、遠くは阿蘇の山々まで望んだ

りと色々。)月の始めの頃は、梅

の花がきれいに咲いていて、天気

の良い日には、班ごとに散歩して

いる姿を見かけては、春が来たな

と、実感していました。が、春

といったら気候の不安定な時期、

急に寒くなったり、暖かくなつた

り。(日によって、昼・夜の温度

差が激しく)体調を崩す人が多く

なりました。(利用者・職員共に)

厨房職員は、今の所は大丈夫です

が、予防として、うがいや、天気

で服を調節して、気をつけていま

す。早く安定した春よ来いと願っ

ていたら、クシャミと鼻水、目の

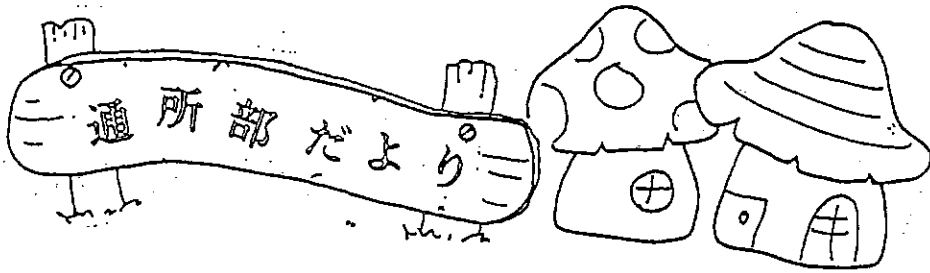
かゆみ...花粉症の症状が...。早

く夏が来ないかと思ってしまうこ

のころです。

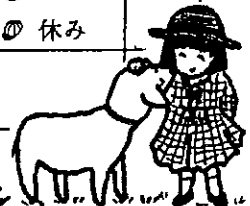
金丸





4月の行事予定

日	月	火	水	木	金	土	
1 ◎ 休み	2	3	4	5	6	7 ◎ 休み	
8 ◎ 休み	9	10	11	12	13	14 ◎ 雑談会	
15 ◎ 休み	16 ◎ 休み	17	18	19	20	21 ◎ 休み	
22 ◎ 休み	23	24	25	26	27	28 ◎ 休み	
29 ◎ 雑談会 ◎ 休み	30 ◎ 休み	◎ 1日、7日、8日、15日、16日、21日、22日、28日、29日、30日 休み ◎ 14日(土) 雑談会					



通所部通信

桜の開花も、もうすぐ…。そう、年度末、一年間のまとめの時期になりました。ここで、みんなの成長ぶりを教えてあげましょう。

享ちゃん：「大人」になりました。お話しも上手になりました。通所部では一番先輩で、周りの皆を温かく見守っています。仲良くなるのも上手です。通所部の保護者の方の人気者です。

貴くん：出来ること、いろいろいになりました。初めての場所も車も平気、外食もOK！大好きな人が沢山になりました。言葉も増えました。毎日のおやつ取りは貴くんの担当になりました。

宣くん：剃り残しが多かったヒゲソリ、上手になりました。ヒゲソリ機の掃除も上手です。首を横に振ることも減ってきて、この3月、また一つ大人になりました。美智子さん：享ちゃんとの楽しい会話が毎日の楽しみだそうです。いつも優しく、皆に声をかけてくれます。作業の（納豆の）わらづと作り上手です。今、ダイエット

に励んでいます。

それから、西山さん…。4月から入所の方へ移動になります。2年間ありがとう。たまには通所部に遊びに来てね。皆で待っています。

新通所所生紹介

高森くん
養護学校高等部をこの3月、卒業した高森くん、笑顔のかわいい18歳です。趣味は絵を描くこと。休日の温泉めぐりが楽しみです。

千田くん

養護学校中等部をこの3月に卒業。15歳の千田くん、通所部の平均年齢を一気に下げました。毎日、大きな目で、優しく見つめています。



岩下



H13年度

4月の行事予定

日	月	火	水	木	金	土	備考
1	2	3	4	5	6	7	
	㊟ 就任式		清田さんの誕生日(28)	国本さんの誕生日(30) ㊟ 3班レク			
8	9	10	11	12	13	14	
		㊟ 1班レク	中嶋さんの誕生日(33)	㊟ 4班レク		㊟ スペシャル収 ㊟ 保護者会	
15	16	17	18	19	20	21	
			㊟ 6班レク	森さんの誕生日(27) ㊟ 2班レク			
22	23	24	25	26	27	28	
			㊟ 5班レク	㊟ 誕生会	㊟ タンポポ編集日	㊟ 帰宅バス ← 春季帰宅	
29	30	㊟ 清田さん・国本さん・中嶋さん・森さんお誕生日おめでとう! 2日 就任式, 5日 3班レク, 10日 1班レク					
㊟ むどりの日		12日 4班レク, 14日 保護者会, スペシャル収, 18日 6班レク, 19日 2班レク, 25日 5班レク					
	5/6まで	26日 誕生会, 27日 タンポポ編集日, 28日 帰宅バス, 春季帰宅5/6まで					



ポランティア通信

桜の花も開き始め、待ちに待った春到来ですね。今年は、春一番の大きな行事であった開園祭を、11月にすることになり、この時期ポランティアさんとの顔合わせが出来ないことが寂しくなりません。開園祭が三気の里のポランティアデビューとなる人も多く、名前と顔を覚えられなくて大変な思いをする以上うれしくて、密かに三気の里マジックにかけてやろうと張り切っているのです。三気の里マジックに既にかかっている人もそうでない人も、七月末には夏祭りがありますのでぜひ来てください。

ポランティアありがとうございます
☆ 生け花 西村 栄子
※ 敬称略

退職にあたって

広瀬 美紀

私は幼い頃、どちらかというといじめられる様な子供で、学校に登校すれば集団で無視をされ、学校に着けば、ジャングルジムから

落とされ...と、学校に行きたくないと泣いて、母親を困らせた事もよくありました。幼い頃のその様な体験から、人に対する不自信、恐怖心が人一倍強く、それは高校、短大まで続き、必要最小限の付き合い合いかせせず、また人と付き合い合ってもそれは私にとって形式的な物でしかありませんでした。

そんな私が、人と心から付き合い合えるようになったのも、やはり三気の里との出会いがあったからこそだと思います。私にとっての三気の里は第2の家族の様な所で、三気の里の皆と過ごしていると本当に心の底から一緒に笑って泣いて...当たり前と言われるかもしれませんが、とても充実した日々を過ごす事ができました。そんな、三気の里を去らなければならぬのは、とても悲しく辛い事ですが、ここで得た事をこれからの私の人生の基盤として生きていこうと思います。私にたくさんの事を教えてくれた三気の里のみなさん、本当に、心の底から...ありがとうございます。

